



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための
「連携・協働」の推進



どうして勉強 しなきゃいけないの？

今回の学校だよりは、少し志向を変えて「AさんとB先生との会話」を通してお届けします。学校生活の中で生まれる“素朴だけれど大切な問い”を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

AさんとB先生の会話

Aさん「先生、どうして勉強しなきゃいけないんですか。将来使うかどうか分からないのに、こんなこと勉強して意味あるのかなって、時々思うんです」

B先生「そう感じるのは自然だよ。将来がまだ見えなくて、気持ちも揺れやすい時期なんだ。Aさんは“今の学びの意味”を知りたいんだね」

Aさん「うん。よく分からなくて……」

B先生「じゃあ、“知識と技能”“自信”“知恵”の3つから考えてみようか」

B先生「“知識や技能”を増やすことは、未来の選択肢を広げることになるよ」

Aさん「??? (少し考え込む)」

B先生「“自信”は、やればできるという感覚のこと。点数だけでなく、いろんなことに挑戦したり続けた経験が、自分を信じる力、自信になるね」

Aさん「この前、数学の計算テストが満点でした」

B先生「そうそう、それが、自信の芽なんだよ」

Aさん「自信の芽か……」

B先生「“知恵”は、知識と経験が繋がって生まれる力だね。Aさんは、これまでも、そしてこれからも、いろんな人との交流を通して、この力を身につけていくと思うよ」

Aさん「……よく分かりません」

B先生「そう感じるのは自然だよ。経験の中で少しずつ身につけていくものだからね。当然、うまくいかないこともあるし、それも大切な経験だよ」

Aさん「これからも、話を聞いてもらえますか」

B先生「答えはすぐには見つからないよね。考え続けることが大事だよ。困ったら、また一緒に考えよう」

Aさんのように「どうして勉強しなきゃいけないの?」と問い始めることは、自分の生き方を考え始めた証です。文部科学省は「確かな学力」を、知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力・人間性の3つで捉えています。

これを踏まえB先生は、3つのキーワードで、Aさんの問いに寄り添ったのです。知識が増えると世界の見え方が変わり、技能が身につくとできることが増えます。知らなければ選べない道があり、できなければ挑戦できない場面があります。“できた”“やり遂げた”という達成感や充実感が、次への“一步”を踏み出す力になります。知識だけでも経験だけでも不十分です。両者が結びつくことで、“生きる力”になります。

“友達とギクシャクした時、どう話せばいいか”
“失敗した時、どうすれば解決するのか”

こんな力が、知恵です。これは、誰かがあらかじめ用意した“正解”を覚えることで得られるものではありません。RADWIMPSが『正解』の歌詞で伝えているように、自分で悩み、選び、歩いた道の中こそ、自分なりの答えが形になっていくのでしょう。

そして、この「問い」は、中学校を卒業したら終わりというものではありません。高校、大学、そして社会に出てからも、人との関わりや新しい経験を通して問い続けるのです。学び続ける姿勢そのものが、人生を豊かにしていく……。これが生涯学習の考え方であり、学校教育での学びは、その入口にすぎません。



私たち大人ができるのは、“正解”を押しつけることではなく、子どもの思いを受け止め、考え続ける力を支えることです。

“子どもたちが、自分自身の力で、正解を探せる人へと育つように” “将来、社会に出てからも学び続けられる人になるように”

これからも生徒たちに寄り添いながら、一緒に考えていきたいと思っています。